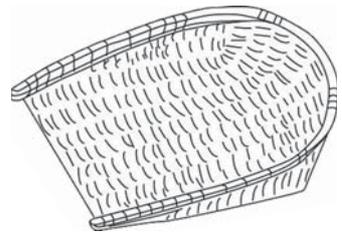


名張市ゆだより

編集発行 名張市総務部総務室市史編さん担当
〒518-0718 名張市丸之内54番地8
☎0595-64-2249

NABARI HISTORY LETTER No.4
平成21年3月22日



箕取りと汁よばれ

赤目町星川の秋祭り

名張市史編集専門部会民俗部会委員

吉川 雅章(日本民俗学会会員)



〔写真1〕キョウを箕であぶる箕取りの行事

10月から11月は各地で秋祭りのシーズンです。赤目町星川に鎮座する八幡神社でも11月2日に宵宮、3日に本祭が行われます。祭りの準備は三軒のトウヤ(頭屋)が中心となって神社のすぐ近くにある集会所で進められます。

2日の正午に氏子が集会所へ集合し、酒で景気づけのあとキョウ作りから始めます。集会所前にツクネと呼ぶ二人が菰の上それぞれ一升の蒸した餅米を掛けていくと前から箕取りと呼ぶ者が竹箕であおぎ続けます。この蒸飯をツクネは押し固めながら円錐形のキョウにまとめあげると箕取りが箕で受け取ります(写真1)。この一連のキョウ作りのこともまた「箕取り」と呼んでいます。

以前は氏子の軒数分調製していましたが、現在は本祭の供物用など数個だけとなっています。次に集会所前広場で餅つき、祝い唄を唄いながら千本杵でつきまします。この丸めた小餅は「鎮の餅」といい、内氏子に配られます。餅つきのあと座拜に配布する膳の献立を用心し、薬で来年度のトウヤ用の鍋つかみを作るなどして作業を終えます。夕方からは宵宮祭。礼服に衣を

正し、道中提灯を手にした三人のトウヤと区長ら役員は集会所から神社まで渡御します。トウヤは腰に藁製の鍋つかみと米包を付けています。宮司と役員以外の氏子らは神社に直接集まっています。祭典終了後、参列者に拝殿で直会。御神酒とアテが配られます。アテとは直径二センチ程の小餅のことで、おそろしくシトギ(水に浸して柔らかくした白米を白で挽いて粉にし、水で練って餅や団子状にしたもの)の名残と思われま



〔写真2〕集会所広場で汁をよばれている氏子の人たち

3日は本祭日。正午から「汁よばれ」と称する行事が始まります。畳表が敷かれた集会所の広場には老若男女の氏子中が集まって汁をよばれます(写真2)。汁はドロイモ(里芋のこと)とナスの具にユウ(柚)で香り付けした味噌汁でお代わりは何杯でも自由。お酒も振舞われます。一時間程すると鎮の餅と外氏子用の餅米の配布、さらに福引も行われて大いに賑わいます。

一段落したあと本祭。宵宮祭同様トウヤと役員は渡御します。祭典には魚や野菜などの神饌と共にエビを刺し立てて新薬を三筋巻きつけたキョウも供えられます。祭典後、集会所で座拜に移ります。世帯主が着座。膳には餅米一升・芋頭・枝豆・栗・鎮の餅・ゴマ塩・両口箸それぞれに八幡神社御神札が載っています。最初に三種の儀。いわゆる三献の儀のことでハイド(配度・給仕係のこと)が



〔写真3〕キョウを間に三々九度の儀を行うトウヤたち

のトウヤのキョウを下げてその一部を崩し、皆に配ります。氏子総代長の発声で一同、キョウを口にします。二のトウヤ、三のトウヤのキョウについても同様にいったあと座拜はお開きとなります。箕であぶる所作は『名張の民俗』(1968発行)の中に積田神社のある夏見地区で「箕あぶち」という名称で白蒸を箕であぶる行事のあったことが記されています。氏子に汁をふるまうことは赤目町柏原、一ノ井、丈六の各地区などでも行われていますが、星川地区のように畳表や青シートを敷いて大がかりに行っているわけはありません。また、キョウも市内の多くの秋祭りでは供えられていますが、エビを刺し立てたものとは見られません。このように興味深い種々の特色を今日も伝承しているのが、星川の秋祭りです。



香落溪(屏風岩) 柱状節理の巨大な岩壁の景観が見られる。垂直の柱状節理による景観は、谷の形や節理の間隔、方向によって特色が出る。

節理と断層

名張市史編集専門委員会委員

山田 純 (三重大学名誉教授)

節理と断層とは

節理と断層は地殻変動による変形で、岩石中に生じた割れ目のこと。この割れ目に沿って両側の岩盤が相対的に移動したものを「断層」、移動しないものを「節理」と呼びます。節理には火山噴出物が冷却固結する際の収縮によりできる割れ目も含まれます。

節理がつくる赤目溪谷や香落溪の景観

赤目溪谷や香落溪など、名張の節理がつくる景観は、室生山地に分布する1440万年前に噴出さ

れたと計算されている室生火砕流堆積物によるもの。これは、堆積時、内部に保存された熱で再溶融して溶結凝灰岩になったもので、この中に発達しているものが垂直の柱状節理です。

この垂直柱状節理の景観は、谷の形や節理の間隔、方向によって特色が出ています。

赤目溪谷は、河川の先端で見られる頭部浸食地形を示しています。溪谷は節理によって岩壁からはずれた落石が転がり落ち、後に階段状の岩壁を残しています。この地形の上を流れる水は大小あまたの種々の形態をもつ滝として形成されるのです。

香落溪の峽谷は、柱状節理の巨大な岩壁の景観が見られます。

両者の節理の間隔は赤目溪谷の方が小さく、数も多く、板状の節理をつくっている場所もあります。岩柱や広い岩盤の河床面の存在はこの節理面によるものでしょう。落石は節理面からの剥落によるもので巨岩は少ないです。節理による階段状の谷底を流れる溪流は節理の状況により、種々の形の滝をつくり、谷底では頭を出し劈開面(※劈開：ひびが入って割れること。ある特定の平面に平行に割れること)を残した転石が見

られます。これらの姿は、庭園的景観と呼ばれ、狭い範囲に多様な独特の景観をつくりだします。

活断層といわれる名張断層

名張を囲む山地や高原は、準平原と考えられる平らな面が北東から南西に走る断層群で切断されている変動地形です。特徴は、起伏が極めて少ない尾根になっていること。名張を代表する断層崖の景観は、宇陀川が流れる低地と大和高原をつくる平坦面とが境する名張断層といえるでしょう。

名張断層は名張川に断層崖を見せ、北西に傾く逆断層であり、大

和高原の平坦面も断層と同じ方向に傾むいています。

名張断層は活断層といわれ、地震活動を起こす可能性があります。その規模や時期を推定するには過去の資料が必要ですが、名張断層においては、地震に関する資料がありません。ただ、伊賀市阿保にある大村神社の存在は神社の創設(769年)以前に災害を起こす規模の地震があったことを示すものかもしれません。



赤目町新川より茶臼山西南笠間峠付近の名張断層を望む

「おきつもの名張 今と昔」

定価 800 円で販売しています

市制 50 周年を記念して刊行した、名張の 1 万 2 千年を 3 つの分野に分け 85 項目で学ぶガイドブックです。

- 名張のことをより知っていただく導入として、自然・歴史・暮らしの三分野で、名張の特色が多彩な姿で浮かび上がります。
- 1話ごとに読み切り2ページの写真・図・注釈つきで親しみやすく、少しの空き時間でも読んでいただきやすくなっています。
- 暮らしに密着した出来事をもとにまとめた年表に新たに平成 16 年から平成 19 年までのできごとを加筆し、思い出の数々がよみがえります。



● 規格：B5判縦型
一部カラー 209 ページ

史跡名張藤堂家邸跡窓口および隣の市史編さん担当窓口で購入いただけます。また、遠方の方には郵送での販売も可能です。詳しくは、市史編さん担当(☎64-2249)へお問い合わせください。